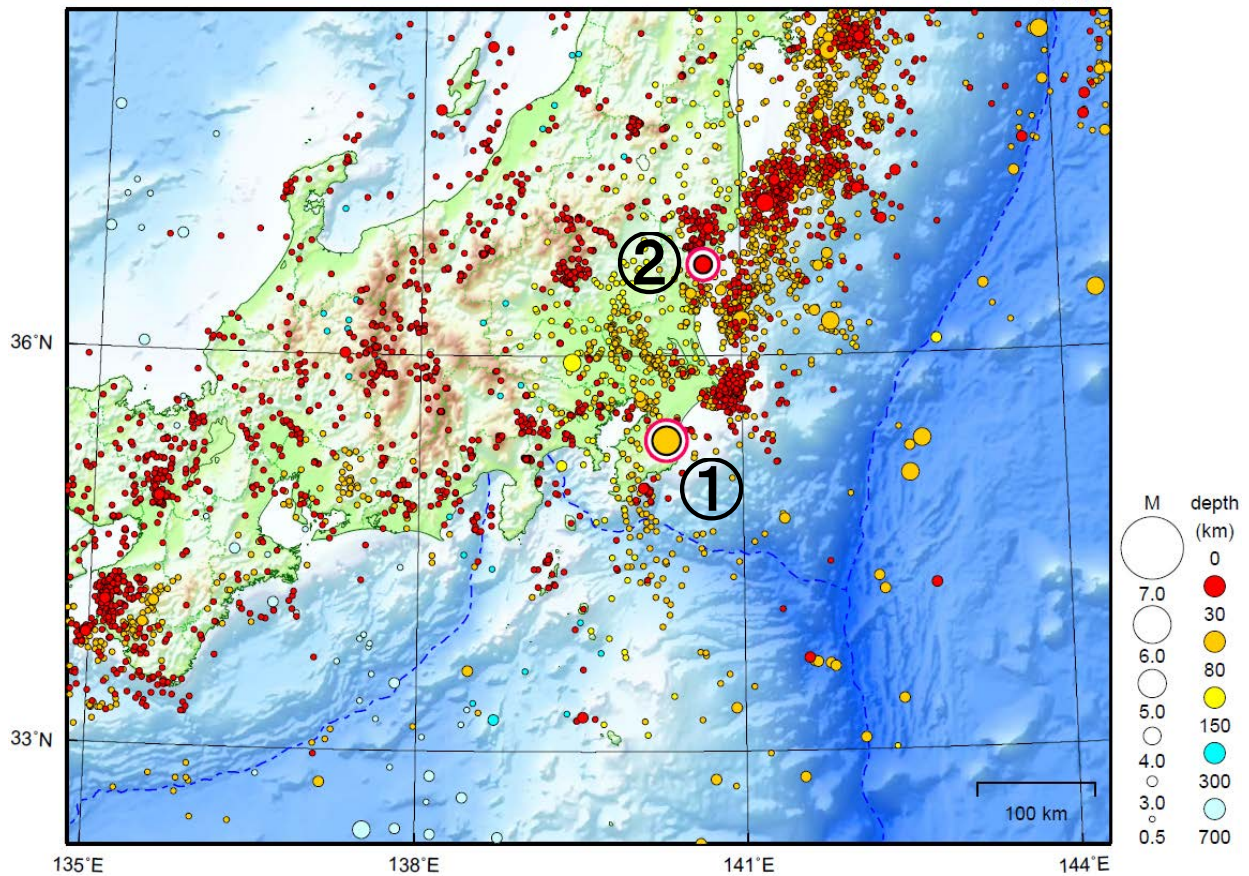


関東・中部地方

2019/05/01 00:00 ~ 2019/05/31 24:00

N=5034



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 5月25日に千葉県北東部で M5.1 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。
情報発表に用いた震央地名は[千葉県南部]である。
- ② 5月27日に茨城県北部で M4.3 の地震（最大震度 4）が発生した。

（上記期間外）

6月1日に千葉県北東部で M4.7 の地震（最大震度 4）が発生した。

（上記期間外・上記範囲外）

6月4日に鳥島近海で M6.2 の地震（最大震度 4）が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

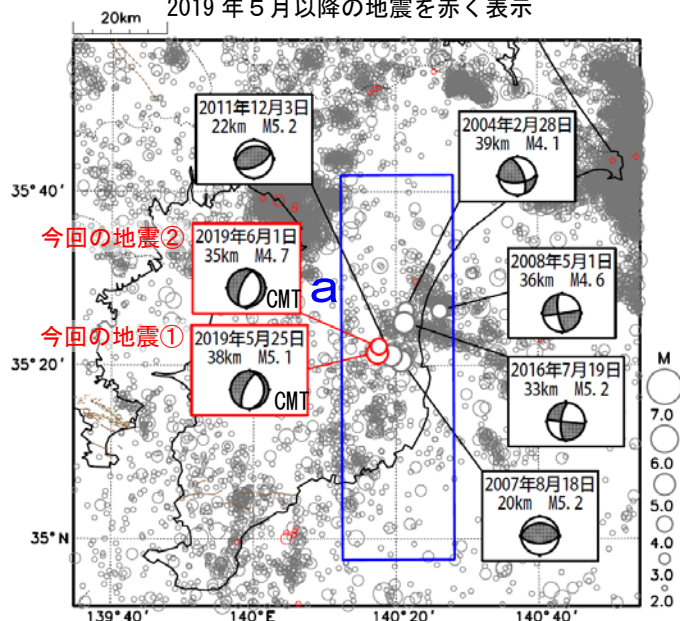
気象庁・文部科学省

5月25日、6月1日 千葉県北東部の地震

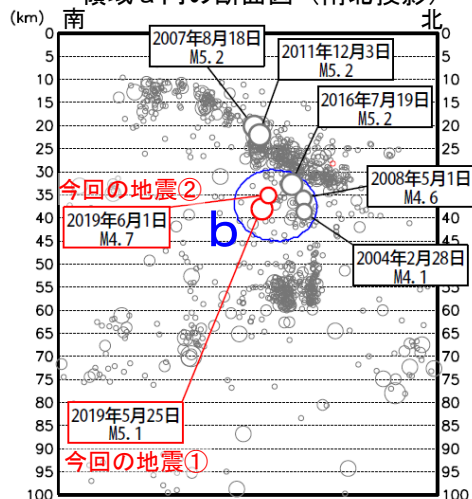
震央分布図

(1997年10月1日～2019年6月1日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)

2019年5月以降の地震を赤く表示

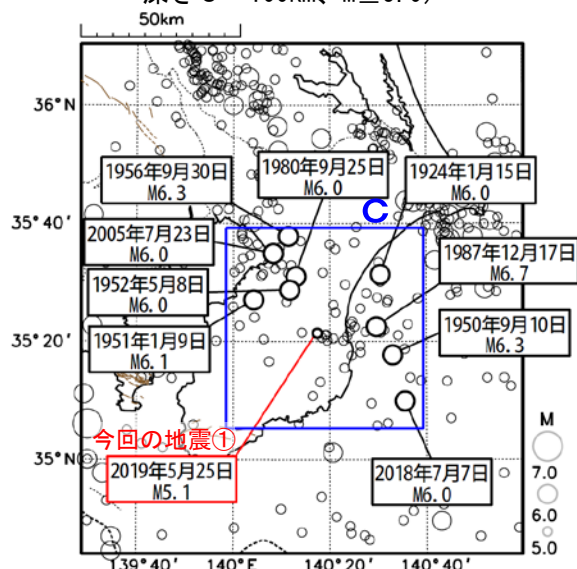


領域a内の断面図（南北投影）



震央分布図

(1922年1月1日～2019年6月1日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



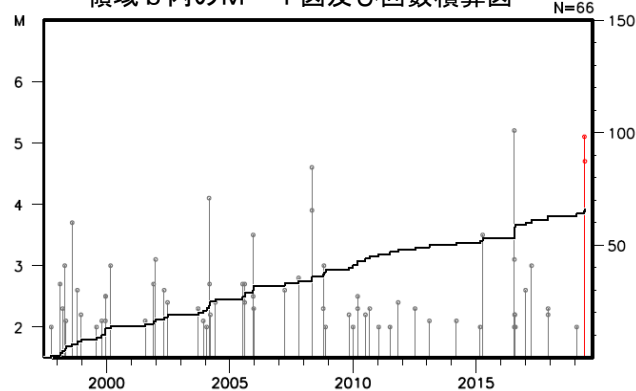
5月25日の地震の情報発表に用いた震央地名は「千葉県南部」である。

2019年5月25日15時20分に千葉県北東部の深さ38kmでM5.1の地震（最大震度5弱、今回の地震①）が発生した。また、1週間後の6月1日07時58分にも深さ35kmでM4.7の地震（最大震度4、今回の地震②）が発生した。これらの地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した。なお、5月25日の地震により、軽傷者1人の被害が生じた（6月3日現在、総務省消防庁による）。

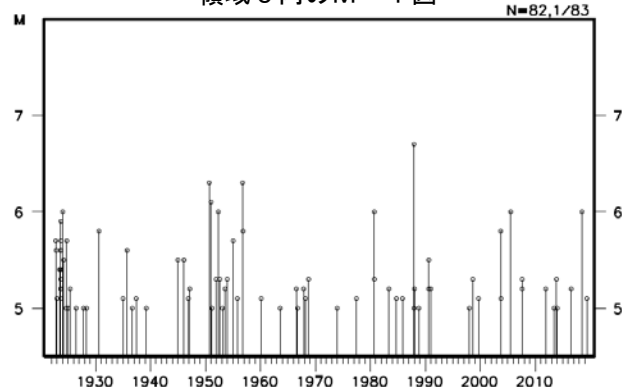
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、あまり地震活動が活発ではないものの、M4.0からM5.0程度の地震が時々発生しており、2016年7月19日には、深さ33kmでM5.2の地震（最大震度4）があった。なお、今回の地震の震央付近では、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界におけるゆっくりすべりに伴い、まとまった地震活動が時々みられる。今回の地震は、これらの地震活動よりも深い位置で発生した。

1922年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。1987年12月17日に発生したM6.7の地震（最大震度5）では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家半壊102棟、住家一部破損72,580棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図



気象庁作成

5月27日 茨城県北部の地震

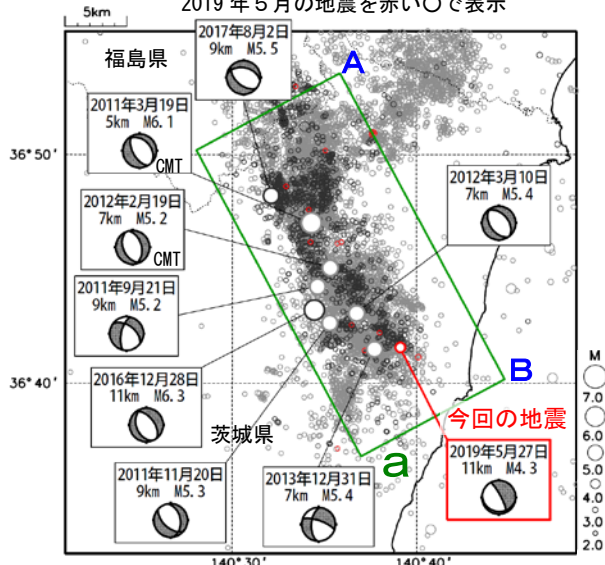
震央分布図

(2011年1月1日～2019年5月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)

2016年12月27日までの地震を薄い○で表示

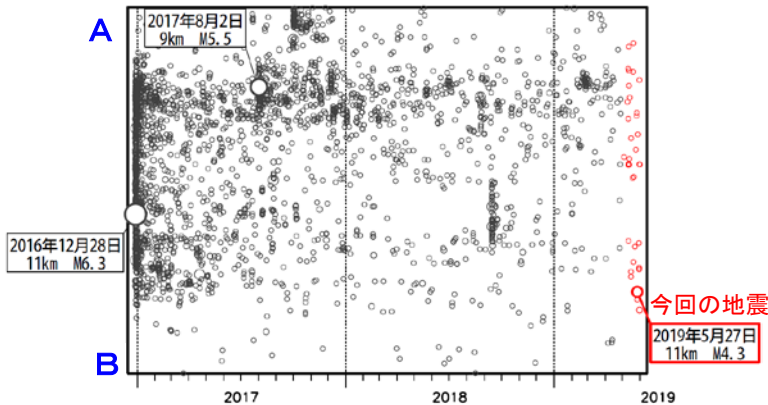
2016年12月28日から2019年4月30日の地震を濃い○で表示

2019年5月の地震を赤い○で表示



領域a内の時空間分布図 (A-B投影)

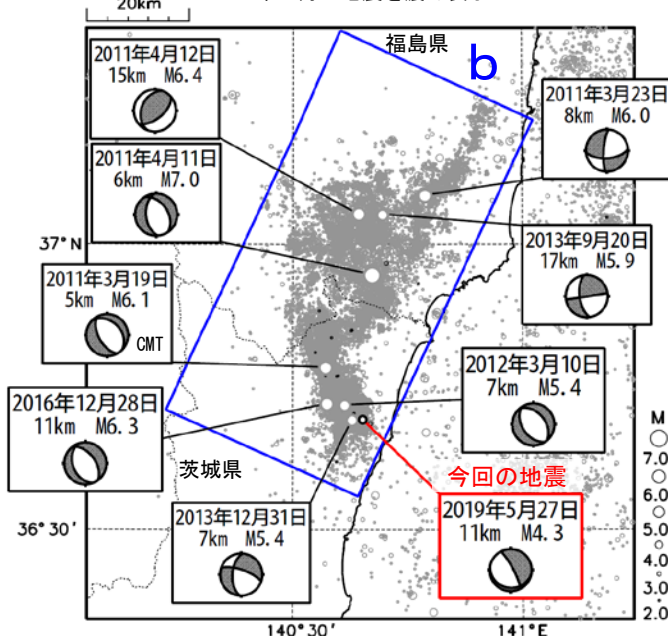
(2016年12月28日～2019年5月31日、 $M \geq 1.5$)



震央分布図

(1997年10月1日～2019年5月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 2.0$)

2019年5月の地震を濃く表示

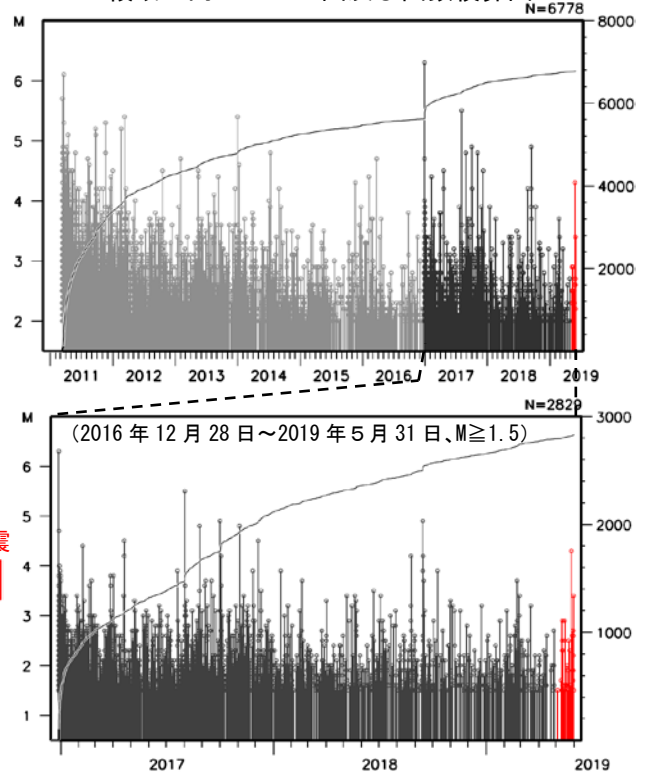


2019年5月27日04時04分に茨城県北部の深さ11kmでM4.3の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は北東－南西方向に張力軸を持つ型であった。

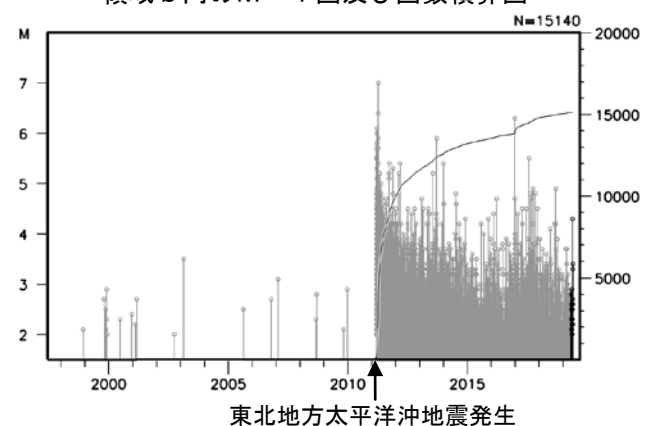
2011年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域a) では、2016年12月28日にM6.3の地震 (最大震度6弱) が発生するなど、M5.0以上の地震が時々発生している。

1997年10月以降の活動をみると、福島県浜通りから茨城県北部にかけての地殻内 (領域b) では、東北地方太平洋沖地震の発生後に地震活動が活発化し、2011年4月11日に発生したM7.0の地震では、死者4人等の被害が生じた (被害は総務省消防庁による)。この活発な地震活動は徐々に減衰しつつも継続している。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図及び回数積算図



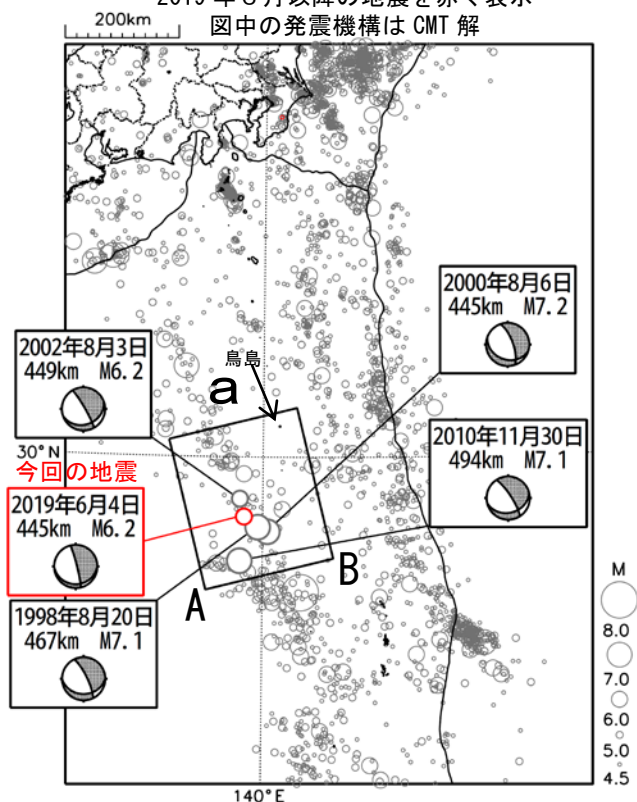
6月4日 鳥島近海の地震

震央分布図

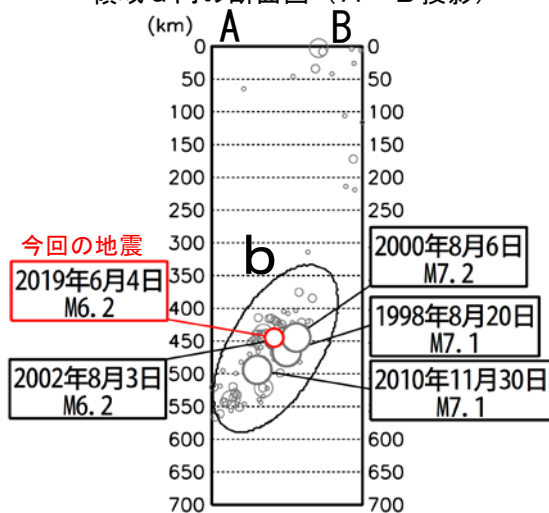
(1997年10月1日～2019年6月4日、
深さ0～700km、 $M \geq 4.5$)

2019年6月以降の地震を赤く表示

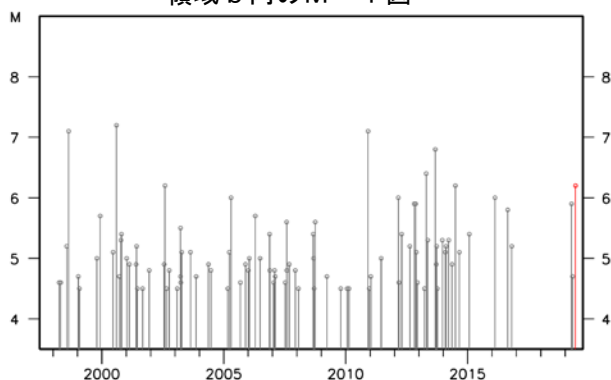
図中の発震機構はCMT解



領域a内の断面図 (A-B投影)



領域b内のM-T図



2019年6月4日13時39分に鳥島近海の深さ445kmでM6.2の地震 (最大震度4) が発生した。この地震により、小笠原村母島で震度4を観測したほか、東北地方から小笠原諸島にかけて震度3～1を観測した。この地震の発震機構 (CMT解) は、太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。

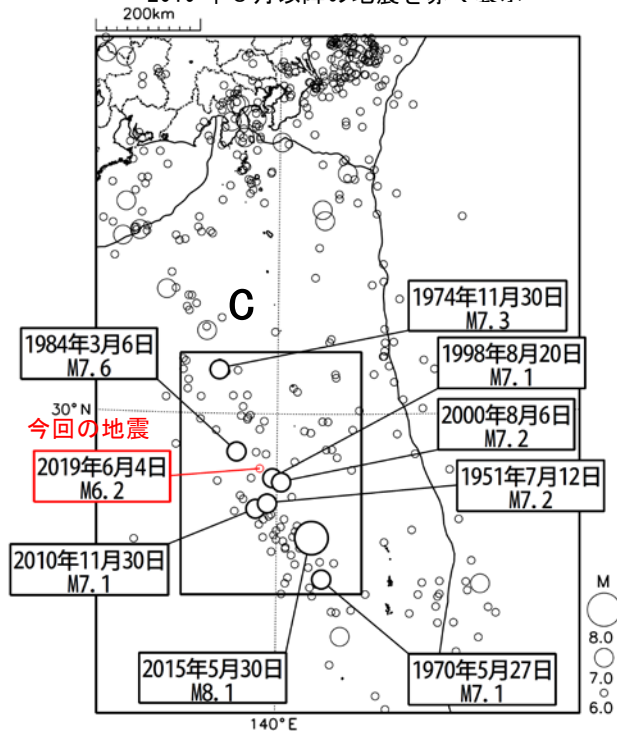
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、M6.0以上の地震が時々発生しており、2000年8月6日にM7.2の地震 (最大震度4) が発生した。

1922年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M7.0以上の地震が時々発生している。1984年3月6日にM7.6の地震が発生し、死者1人、負傷者1人等の被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

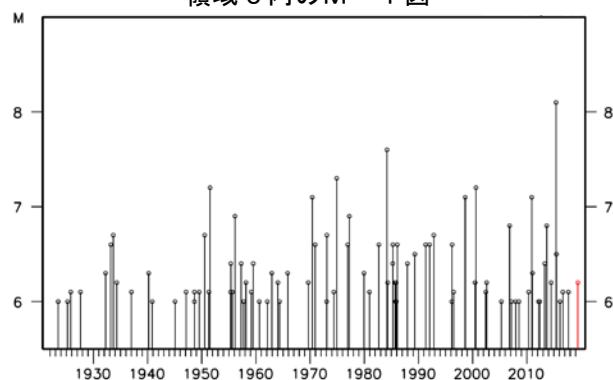
震央分布図

(1922年1月1日～2019年6月4日、
深さ0～700km、 $M \geq 6.0$)

2019年6月以降の地震を赤く表示



領域c内のM-T図



気象庁作成